

プログラム近況報告

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

モンゴル国 バヤン・ウルギー地域開発プログラム
(MOG-184842)

子どもや地域住民の声を反映した 地域づくりが継続されています



博物館前での集合写真



消防車を見学しました

バヤン・ウルギー地域開発プログラム(以下、ADP)では、国の政権交代に伴い、地域政府や住民などとの関係を再構築しなければならないという困難がありました。そのような中でも、新たな学校の建設や様々な活動を地域住民との協力のもと行うことができました。子どもたちを対象とした市内探訪が行われ、市内にある博物館や、消防局、政府機関などを見学しました。様々な職業に携わる人が町を良くするために働いていることを学び、厳しい家庭環境にある子どもたちも希望ある将来と、職業を選択することができることを知るよい機会となりました。また、子どもたちは、両親が働き家庭を支えていることを学び、家庭で子どもたちが役割を担うことの大切さも学びました。今後も子どもたちと地域住民の声を反映した活動を進めてまいります。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をとともに喜んでいただけますと幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ワールド・
ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ



バヤン・ウルギー地域の子どもたちと
ADPマネージャー（後方右側）

親愛なるスポンサーの皆さま

バヤン・ウルギー地域を代表し、皆さまのご支援に心より感謝申し上げます。いただいたご支援により、今年度も多くの進展をみることができましたことをここに報告させていただきます。子どもたちを取り巻く家庭と地域の環境を改善することで、一人ひとりの可能性を開花できる地域を目指し、今後も活動を継続してまいります。

皆さまのご協力が地域の変革に不可欠です。感謝とともに、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ボラトベク ダウレツカーン

(バヤン・ウルギーADPマネージャー)

教育プロジェクト



地元の図書館と協力し、新しい本の支援と移動図書室の活動を行いました。700人近くの子どもたちが参加し、本に親しみました

昨年度に引き続き、教員だけでなく、保護者も含めた研修を行い、他地域の学校への視察も行いました。これまでの伝統では子どもたちが自分の意見を述べるのが良しとされず、大人の言うことに子どもが従うということが重視されていました。教員や親たちは研修を通じ、子どもに肯定的に関わる手法を学び、実践するようになりました。伸び伸びと過ごせる環境が整ったことで、子どものやる気を引き出し、それぞれの資質を伸ばすことができ、学習効果が高まるなどの変化が見え始めています。



障がい児センターで学ぶ子どもたち

また、障がい児センターの運営を行い、障がいを持つ子どもたちのリハビリと療育を行っています。今年度より、聴力障がいを持つ子どもたちのコミュニケーション力を高めるために手話を教える試みを始めました。このほか、子どもたちを取り巻く社会環境を改善し、障がいを持っていても安心して過ごせる地域を目指し、活動を進めてまいります。障がい児センターでの活動に参加している女の子の父親は、「娘は障がい児センターでの活動に参加し、今では読み書きや絵を描けるようになりました。わが子の変化と成長は本当に嬉しいものです。今後は、障がいを持っているほかの子どもたちのサポートもしていきたいです」と語ってくれました。

経済開発プロジェクト



小規模ビジネスを行う住民グループに対し、グループの運営方法、ビジネス関連の法律知識などについて研修を行いました

地域住民からの要望の多い、小規模ビジネスの研修と能力や質の向上を目指した活動を行いました。技術指導だけではなく、実際に製品を販売し収入につなげられるよう、今年度も、全国から様々な製品が集まる貿易フェアに参加しました。活動を通して小規模ビジネスに携わる家庭の収入が徐々に増加しています。

また、今年度は、小規模ビジネスの研修やミーティングの際に、非常時へ備えることについて啓発活動を行いました。非常時には住民自身、そして地域の力で災害や緊急事態に立ち向かえるようになることが目標です。

社会開発プロジェクト

ADPで暮らす家族にとって自分たちだけで、収入の問題、子どもたちの教育の問題、あるいは家族の問題を解決する方法や手段を見つけることは大変困難です。そういった家族に対し、具体的な例を挙げ、どのように対処していくとよいかについて学ぶ機会を設けました。また、家庭の問題に関する学びを行う際に、男性だけでなく女性も積極的に参加できるよう、女性の地位向上を目指した活動も行われました。

そのほか、子どもたちを中心に環境保護を目的としたエコ・クラブの活動も行われ、ゲームを通じて自然を楽しみながら、環境保護の大切さを学びました。今後もより良い地域づくりを目指した活動が継続されていく予定です。



自然の中でゲームを楽しむことで環境保護の大切さを学びました

会計報告

収支計算書

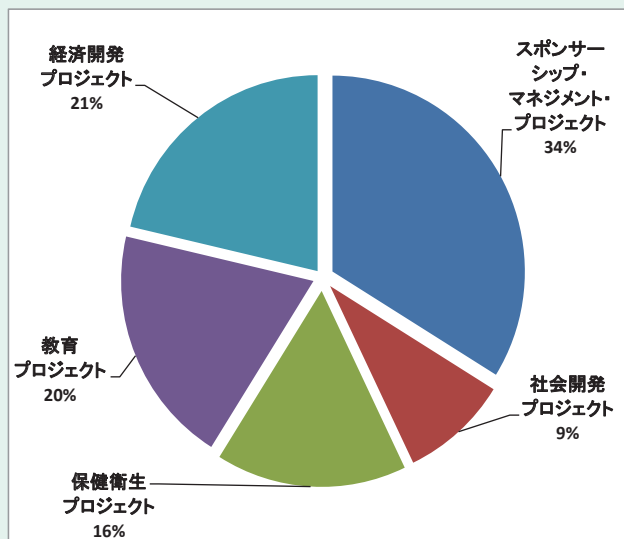
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

プログラム支援額		MOG-184842 (単位:円)
チャイルド・スポンサーシップ		57,290,539
当期支援額		57,290,539
前期繰越金		-816,095
プログラム支援額合計		56,474,444

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	18,504,974
社会開発プロジェクト	4,953,987
保健衛生プロジェクト	8,767,626
教育プロジェクト	10,791,954
経済開発プロジェクト	11,678,268

プログラム支出額合計	54,696,809
次期繰越額	1,777,635

支援分野別内訳(MOG-184842)



保健衛生プロジェクト



小学校で手洗いについて学ぶ子どもたち



地域の衛生状態を改善するための方法を学ぶ女性たち。研修を通し、不衛生なトイレや下水が伝染病の感染源になるということを理解することができました

昨年度に引き続き、地域住民や保健医療従事者を対象に、健康管理の習慣や母子保健についての研修を実施しました。今年度は、母親や、子ども、教育関係者など地域の住民がより積極的に活動へ参加するようになり、実際の行動に変化が生まれています。

例えば、産前産後のケアについて研修で学んだ妊婦は、妊娠の記録をとることの重要性を認識し、定期的に健診に来るようになりました。また、低体重と診断された230人の子どもたちが栄養剤の投与を受けたほか、地域の保健ボランティアとして訓練を受けた母親が、低体重の子どもをもつ母親へアドバイスをを行うといった活動が行われています。

これらの活動を通じ、地域の子どもの乳幼児死亡率が減少しています。地域での研修を行うにあたっては、講師が一方的に教えるのではなく、参加者が考えながら、主体的に学べるよう努めています。子どもたちや両親、教員や地域の人々が、自らの問題に積極的に取り組むことで、より理解が深まりよい解決方法が生まれています。

今後も、より地域の人々が中心となって活動に取り組めるようサポートを行っていきます。



プログラムの活動に参加する地域の子どもたちとスタッフ



クリスマスカードに絵を描いています

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。

そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

モンゴル国 ハイラアスト地域開発プログラム
(MOG-181425)

5年間の活動を振り返り、より子どもたちと住民を
中心とした地域に発展させていく準備を行いました



子どもたち自身が
保健衛生の知識を
深め友だちにも伝
えています



地域で安全な水が得られるようになりました

今年度、ハイラアスト地域開発プログラム(以下、ADP)では、この5年間の活動を振り返り、評価を行いました。これまでの活動を通じ、弱い立場に置かれている地域の子どもの環境が改善され、様々な成果が見られています。具体的には、子どもたちの学習環境が改善していること、子どもたち自身が積極的に活動に参加するようになったこと、地域の保健ボランティアが育成され活躍していること、安全で衛生的な水へのアクセスが向上していること、乳幼児や妊産婦の栄養状態が改善されていること、収入向上のため地域の人々への技術が向上していること、住民同士の関係が深まりお互いに助け合う意識が育っていることなどです。引き続き、地域の子子どもたちと住民が中心となり、子どもたちにとって優しい地域となることを目指し、活動を進めてまいります。

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人ワールド・
ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦

ADPマネージャーからのごあいさつ



ハイラアスト地域の子どもたちと
ADPマネージャー(後方中央)

親愛なるスポンサーの皆さま

モンゴルからご挨拶申し上げます。ここにご報告させていただきま
す成果は、いずれも皆さまからのご支援無くしては実現できなかつ
たことです。多くの子どもたちと家族に喜びが広がっています。子ど
もたちと地域への温かいご支援に心より感謝申し上げます。2006年
より開始した活動は、次年度の2015年より次の段階に進みます。地
域住民がこれまで以上に中心となり、持続して発展できる地域を目
指し活動を進めてまいります。これからも、スタッフ一同、全力で取り
組む所存です。

皆さまに神様の祝福がありますように。

エンクズル・グルグ

(ハイラアストADPマネージャー)

教育プロジェクト

昨年に引き続き、子どもたちが自分で考え、意思決定しそれを伝えることを学ぶライフ・スキル*を伸ばすための活動が行われました。これまでの伝統文化では、子どもたちが自分の意見を述べるのが良しとされず、お互いの考えを共有し、各々の発想を生かす機会がありませんでした。

教育プロジェクトでは、能力開発プログラムを今年度も行い、500人以上の子どもと青少年が参加し、自分の考えや言動に自信を持つことについて学んだほか、将来の夢や希望を考える機会を持ちました。この活動を通し、子どもたち自身と親が、伝統的な価値観を乗り越え、子どもたちには様々な可能性があることに気づくことができました。その一つの例として、子どもたちの提案で募金箱が設置され、集まった募金で地域のお年寄りに食事を提供することができました。

自分たち子どもも困難な状況にある人々の役に立つことができる、ということを知ったことは子どもたちにとって大きな励みとなりました。参加した一人は、嬉しそうにこう語ります。「これまで自分のような子どもは人の役に立たないと思っていました。でも、今は、自分たちが信念をもって、一緒に行動を起こせば、何かできるということを知りました」そのほかにも、学校ではライフ・スキル・トレーニングとして、フェルト細工、革細工やアップリケなどの手工芸品の製作を学びました。学年末には展示会を開催したほか、製作したものは親や先生、友人にプレゼントしました。このような活動の一つひとつを通して、個性を生かし学びあうことや、積極的に社会に貢献する市民になる大切さを子どもたちが学んでいます。

*ライフ・スキル:子どもたちが、自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになること



ライフ・スキル・トレーニングで自分
の意見を効果的に述べる方法を学ぶ
子どもたち



募金箱の設置を行った子どもたち

保健衛生プロジェクト



栄養改善の指導を受ける母親とその子ども



外遊びの大切さを学び実践する乳幼児の母親と子どもたち

子どもたちの栄養不良改善を中心に活動が行われました。適切な栄養を摂取することは、子どもの成長にとって欠かせません。妊娠中から乳幼児期にある母親と子どもの栄養状態を改善することにより、子どもたちを予防可能な病気から守り、健康な将来に備えることができます。

昨年に引き続き、保健ボランティアとしてトレーニングを受けた地域の母親40人が中心となり、栄養改善を目的とした母親たちのグループの活動が行われました。グループでは、地域の母親や祖母が集まり、どうすれば栄養価の高い食事を作れるかを話し合いました。参加者は、地域で手に入る栄養価の高い食材や調理法を学び、各々の家庭で学んだことを実践しています。保健ボランティアとして活動する母親は、活動に参加してからについてこう話してくれました。

「以前、私は息子の栄養不良を改善するには、高価なビタミン剤や食品を買わなくてはいけないと思っていました。この活動に参加して、高価な食材でなく、身近なジャガイモやニンジンでも、子どもが食べやすいように調理することで、栄養価の高い食事を作れると知りました。おかげで息子は標準体重に達することができ、本当に嬉しいです。私と同じ問題を抱えている地域の人たちにこのことを伝えたいと思い、今ではボランティアとして活動をするようになりました」

グループ活動を通じ、子どもたちの健康への意識が地域住民の間で高まり、自主的な活動が続けられています。

社会開発プロジェクト

地域住民やチャイルドの家族に対し、「家族や子どもの導き方」、「良い親になる方法」、「家族の大切さ」などについての研修を行いました。

困難な社会状況、貧困、経済的問題などから、大人たちはストレスを抱え、子どもたちが親のストレスのはげ口となり傷つくことがあります。そこで、研修プログラムでは家族で過ごす時間の大切さを実感するため、家族みんなで参加できる研修を行いました。そのような経験を通して、幸せな家族関係を築ききっかけとしてほしいという願いが背景にあります。

そのほかにも、父親には、感情をコントロールする方法や、悪い習慣を避ける方法、父親として育児に関わる方法を、母親には日常の食材を使って安価で栄養価の高い料理を調理する方法や、毎月の家計管理の方法について、子どもたちはどうしたら親を助けられるかについて学びました。家族全員が楽しめるゲームをしたり、家族一人ひとりの将来の夢を話し合ったり、毎月の家計プランを作成することを通して、家族がお互いにそれぞれの気持ちを理解し、幸せに暮らせることを目指し、活動が続けられています。



より良い家庭環境を築くための学びの一環でゲームをする様子

会計報告

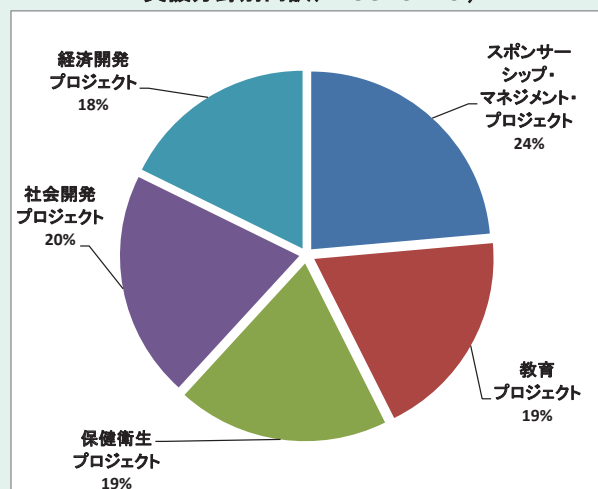
収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	MOG-181425 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	64,083,559
当期支援額	64,083,559
前期繰越金	753,515
プログラム支援額合計	64,837,074
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	14,541,022
教育プロジェクト	11,751,814
保健衛生プロジェクト	11,776,981
社会開発プロジェクト	12,685,267
経済開発プロジェクト	10,903,567

プログラム支出額合計	61,658,651
次期繰越額	3,178,423

支援分野別内訳(MOG-181425)



経済開発プロジェクト

子どもたちが健やかに成長できる安定した家庭環境を整えるため、子どもたちの両親に対し様々な職業訓練を行いました。具体的には、園芸、小規模ビジネスの始め方と運営方法、貯蓄や財務管理に関する知識、グループで事業を行う方法などについて研修を行いました。ほかの地域の事例を視察したほか、貿易フェアにも参加するなど、実際に学んだ知識を生かし収入につなげるための研修も行われました。また、障がいを持つ人々に対し、キルト製作についての研修を行い、ミシンの支援を行いました。古くなった衣類や布地で手工芸品、バッグなどを製作し販売することで、自分の力で収入を得られるようになることを目指しています。

「私にとって、障がいに悩みながら家でじっとしていることは辛いことでした。ある日私は、キルト製作の研修に参加しないかと誘われ、製品を作る訓練を受けました。始めは、カップ・ホルダー、名札、小袋といった小さな製品作りから始めましたが、慣れるにつれ、テーブル・クロスや毛布といった大きなものにも挑戦するようになりました。出来上がった製品のいくつかを買いたいと申し出てくれる友人がいて、私はこのようなことを通して、収入を得たり貯金ができたりするということを知りました」と、研修に参加したナランチュヤさんは話してくれました。地域の人々が経済的に自立できることを目指し、取り組みが続けられています。



キルト製作の研修を受け、ミシンの支援を受けた女性

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



スタッフとともにクリスマスカードを書く子どもたち



スポンサーへ絵を描く子ども

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

また地域では、子どもたち自身が活動に参加することを促進するため、様々なイベントを開催しました。例えば、「世界子どもの日」、「新年のお祝い会」、「0歳から5歳までの子どもを励ます会」、「双子の日」、「環境に優しい家族を目指すエコ・ファミリーお絵描きコンテスト」などです。活動への参加を通して、子どもたち同士の友情も深まり、地域での子どもを中心とした活動へつながっています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。